

新聞雜誌

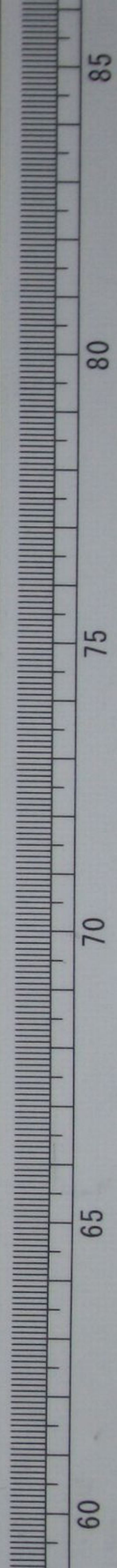
明治壬申七月



第五十四號
附錄

定價四文

西垣文庫
文庫 10
7304
6



持文庫10
7304
6



新聞雜誌第五十四號附錄 明治五年壬申

士族卒給禄、儀ニ付山口縣ヨリ建言書ノ寫

維新以來萬機御更革略其實効相舉リ候エ氏竊カニ惟

フニ 朝廷御憂念ノ被為在處府縣ノ處置ニ難ンズル

憂唯士卒ノ禄制未タ其宜キヲ得サルノ一事ニアリ凡

ソ世ノ事物一利アレハ必一害アリ一害アルモノモ又

一利ナキト能ハス先般廢藩置縣ノ御沙汰ハ封建世禄

ノ舊弊ヲタツベキ御趣意ニテ天下ノ大勢始テ一ニ歸

スルトイヘ氏廢藩後士卒ノ禄制未タ定ラス依之物論

新聞雜誌 第五十四號附錄



5843

洵々トシテ歸スル處ヲ知ス之カ爲ニ凡ソ天下ノ士卒
タル者現今家産ノ有無ヲトワス徒ニ後來ノ活計ニ苦
心スルノミナラス更ニ子弟ノ教育ニ心ヲ用ユル者十
シ實ニ國ノ爲長太息スヘキ事ナラスマ竊ニ時勢ノ進
歩ヲ考ルニ戊辰以來御威徳ノ然ラシムル處ト雖
下ソノ功勞ノアル者ヲ求ムルニ農商有志ノ徒一二或
ハ義ヲ草野ノ間ニ唱ル者アリトイヘ氏抑諸藩ノ士卒
其功多カラストセス近ク一二ノ實ヲ舉テ之ヲ證スル
ニ外國ノ交際ヲ開キ其學術ヲ採用シ貿易ヲ盛ニシ物
産ヲ勸ル等其說皆士ヨリ出テガハハナシ又現今官負

ニ列スル者十二八九ハ皆士ナリ外國ニ游學シ内國ニ
テ洋書ヲ學フ者モ皆士ノ子弟ナリ翻譯者モ士ヨリ出
テ醫モ士ナリ兵モ士ナリ然則方今日本ノ文明開化ハ
皆士卒ノ手ニアリト云フ氏不可ナル事ナカルヘシ是
素ヨリ中古以還士ヲ重シ農工商賈ヲ輕ニスルノ襲弊
ト雖氏今一朝ニシテ其祿ヲ剝キ一時ニ活計ノ道ヲ奪
フハ恰モ世教文明ノ源ヲ塞クニ異ナラス世ニ明教ナ
クシテ誰ト共ニ此國ヲ維持センヤ加之善ヲナスニ勇
アル者ハ惡ヲ爲スニモ氣力アリ今ノ士卒ニ教ヲ施ス
トナクハ忽チ乱暴無頼ノ域ニ陥リ啻ニ國家ノ益ヲ

十廿、ル而巳ナラス世ノ風俗ヲ乱リ他人ノ害ヲナス
一甚シキニ至ルヘシ或ハ小學校ノ設ケヲ盛ニシ農商
ノ子弟ヲ教エ後來確乎ノ文化ヲ待ツトノ説アリ此必
然ノ公理ト雖氏天下一日モナカル可ラサルノ文學坐
シテ以テ後來ノ日ヲ待ツヘケンヤ或ハ士ノ禄ヲ剥カ
ガレハ國用給セスト云フ者アレ共此説是ニ似テ大ニ
非ナリ國用トハ國ノ文明ヲ進ムルガタメノ費用ナレ
ハ今文明ノ源ヲ塞キ更ニ文明ヲ求ムヘキノ理アルベ
カラス然則士族ノ禄ヲ剥ントスルハ其賊ヲ愛ムニ非
ス唯世禄素餐ノ舊弊ヲ除キ政体ノ名義ヲ立ソルカ為

メナランカ政体ノ名義ヲ立ルカ為ニ文明ノ事實ヲ害
スルハ策ノ當ル者ト云フベカラス依テ竊ニ當管内ヲ
以テ之ヲ推スニ凡禄アル者畧 朝廷御趣意ノアル處
ヲ知リ方今稍各生産自治ノ道ニ向ハント欲スレ共其
資ニ充ツベキ貯賤アル者鮮シ歸耕セント欲スレハ田
數反ヲ得ルニ非レハ能ハス歸商セント欲スレハ僅カ
數田ノ金ニテ商法ヲ行フニ足ラス數田ノ金數畝ノ田
スラ尚之ヲ求ムル難シ況ンヤ數百田ノ金數反ノ田ヲ
ヤ抑王政ノ下ニ餓芋アルベカラス今天下ノ士卒一朝
其禄ヲ剥カハ數百万ノ窮民トナル必セリ此時ニ當テ

苟モ政府タル者秦人ノ肥瘠ヲ觀ルガ如クナル
 ニ忍ヒス必ス救助保護ナキアタハス今當縣ノ貫屬九
 一万三千戸人負五万ニ迫シト雖凡其祿二十五石ナル
 者八十ノ二三ニシテ僅五六石ノ祿ニテ一家ヲ給養ス
 ル者實ニ其七八ニ居ル然ルニ一旦官府ノ救助撫育ヲ
 仰クニ至テハ一人一口ノ扶持ヲ給スルニ非レハ其憂
 ヲ免レシムルニ足ラス此ニ就テ籌スレハ恐ラクハ得
 ル處失フ處ヲ償ハガル而已ナラス世教是レガ為ニ類
 壞シ却テ開化ノ退歩トモ相成ベク深ク政府ノ為ニ杞
 憂スル處ナリ之ヲ要スルニ世祿ヲ廢シ四民平均ノ權

ヲ與フルハ其法方百端可有之只管功ヲ旬月ノ間ニ立
 テ利ヲ眼前ニ收ント欲スルハ決シテ難カルヘシ現今
 士族ノ祿一旦被召上候トモ更ニ全州一般ノ定額ヲ立
 テ是ヲ其子弟教育老幼扶助ノ料トシテ下シ賜ハリ地
 方官ニ命シ盛ニ教育ノ道ヲ開キ子弟アル者ハ必ス學
 校ニ入レ之レナキ者ハ祿ノ半ヲ教育ノ積金ト為スノ
 法ヲ定メ此法ニ背ク者ハ嚴ニ罰シテ苟モ其罪ヲ假ス
 一トカラシメハ士族ノ祿亦一利無キニ非ス素餐ノ舊
 弊ヲ除キ人才教育スルノ裨益ヲ得テ名義事實兩ナカ
 ラ其宜キヲ得十年ノ後ニ至リ人々生産自治ノ道ニ志

スヲ待テ徐々變革ヲ行フ時ハ其功遲キニ似テ實ハ速ニ其論迂ニ似テ實ニ施スヘクト奉考候誠ニ天下開塞ノ機海外對峙ノ際不憚忌諱實地ノ景況ニツキ聊カ鄙見ヲ陳述シ奉建言候猷并ノ微意御明断所希ニ御坐候恐惶謹言

額田縣告諭書ノ寫

士ト云農工商ト云其業トスル所ニ就テ名ヲ分ツノ三人種ニ區別アルニ非ス然ルニ因襲ノ久キ士ハ自ラ士農工商ハ自ラ農工商トナリ遂ニ人種ノ異ナルカ如ク尊卑途ヲ異ニシ勞逸勤ヲ同フセガルニ至ル且他ノ三

民ノ如キハ一朝業ヲ改ムレハ名モ亦從テ變ス所謂業トスル所ニ就テ名ヲ分ツノミ獨リ士ニ至テハ則不然俸祿世ヲ累テ常職務ヲ同フシ大過失大失錯アルニ非レハ祿ヲ削リ職ヲ褫フノ罰アルヲナシ以テ然ル所ノ者ハ護民ノ任重ク廉恥ノ破ル可カラサレハ也然ルニ昇平ノ弊名アツテ實ナク其職ニ任ヘサル者モ他ノ三民ノ勞ヲ奪ヒ怙トシテ怪ムヲ知ラス 朝廷深ク其弊ヲ察シ維新ノ際首ニ提籙門闕ヲ廢シ隨テ公卿諸侯ノ族ヲ一ニシ士ノ常職ヲ解キ諸藩ノ版籍奉還ヲ許シ其建議スル所ノ歸田祿券ノ方法ヲ許シ華士族ノ輩脱刀

ヲ許シ平民ト互ニ婚姻スルヲ許シ子弟厄介ハ民籍ニ
 編入スルヲ許シ士族士族ヲ僱使スルヲ許シ在官ノ外
 農工商ノ職業ヲ營ムヲ許ス此數ノ者數百年來成規例
 格アリテ毫モ変更スヘカラサル者ナリ然ルニ今盡ク
 之ヲ解ト之ヲ許スハ四民權ヲ同フシ勞逸勤ヲ均フセ
 シムル所以ナリ然レハ華士兩族未タ其理ヲ解セサル
 者往々有之如此者ハ諷規ノ能ク移易スル所ニ非ス筆
 舌ノヨク勸解スヘキ所ニ非ス唯親ク之ヲ形ニ示シ以
 テ自カラ感發セシムルニ若カスト是ニ於テ平民一般
 苗字ヲ用ユルヲ許シ乘馬ヲ許シ檔高袴割羽織ヲ著

スルヲ許シ彼穢多非人ノ如キハ名稱ノ如ク四民中ニ
 齒セシメザル者ナリ然ルニ其稱ヲ廢シテ平民トナス
 是一ハ以テ平民ヲシテ自カラ卑キニ甘セシメス一ハ
 以テ華士兩族ニ三民ノ蔑視スベカラサルヲ示スナリ
 試ニ思ヘ嚮ニハ士ノ貴キ所以ハ我カ居ル位ハ平民後
 秀ノ者タリ氏登ルヲ得ス我カ著ル所ノ衣ハ平民鉅
 萬ノ財ヲ有スト雖モ服スルヲ得ス乘馬禁アリ佩刀
 制アリ被レ之ヲ犯スヲ得ス今也天地ノ公法ニ基キ固
 陋ノ風習ヲ洗滌シ平民以テ將相ノ位ニ登ル可ク士族
 以テ耕漁ノ業ニ復ス可シ賢愚判然區域ヲ分チ人々ヲ

シテ感憤興起物理ヲ究メ智工ヲ関クノ途ニ就カシム
且往時士ノ恃テ以テ三民ノ上ニ位セシ者ハ特ニ護民
ノ名アルヲ以テナリ今也國勢ノ進歩ニ隨テ兵制ヲ一
変シ海陸軍二省ヲ置キ別ニ募兵ノ法ヲ設ケ材幹用ニ
任ル者ヲ擇ビタマヘハ護民ノ權已ニ我ヲ去ル彼ノ視
テ以テ卑トシ賤トセシ者已ニ我ト其權ヲ同ウス我何
ノ恃テ傲然三民ノ上ニ位セシヤ是理ノ昭々タル者也
天ノ人ヲ生スルヤ賦スルニ為スヲアルノ性ヲ以テス
彼ニ短ナルモ是ニ長スル所アリ是ニ短ナルモ彼ニ長
スル所アリ賢者ハ智ニ食ミ不肖者ハ力ニ食ミ自ラ適

當ノ務アリ今賢者賢ヲ恃テ勉メスンハ其賢タルノ益
ナシ不肖者其不肖ヲ畫リテ勉メスンハ徒ニ天物ヲ耗
損ス如此キハ啻天ノ賦性ヲ盡サ、ル而已ナラス從テ
多少ノ弊害ヲ釀成ス假令ハ邑ニ一人ノ懶民アレハ一
邑ノ人ヲシテ懶ナラシム市ニ一人ノ惰民アレハ一市
ノ人ヲシテ惰ナラシム一粒ノ粟一尺ノ布皆多少ノ工
ヲ積ミ多少ノ力ヲ費シテ成ル所ナリ我之ヲ受ルノ權
ナクシテ受ク可キニ非ス今天下九十餘万ノ華士族皆
祖先ノ餘功ニ食ム者ナリ之カ為ニ三民ノ勞ヲ奪フ其
レ幾許ソヤ天下何ノ餘カアリテ強大ヲ致サン天下何

ノ餘財アリテ贍富ニ至ラン故ニ 朝廷今日ノ急務ハ
 華士族ヲシテ別テ産業ヲ授ケ三民ト同ク自カラ其智
 カニ食マシムルニアリ去歲藩ヲ廢シ縣ヲ置キ分合ノ
 制已ニ定マリ一縣毎ニ一縣ノ貫屬ヲ統ヘ其縣々卒ノ
 中功終身一止ル者ハ民籍ニ編入シ自ラ世襲スル者ハ
 士籍ニ加ヘ屬族ノ分類ヲ一ニシタマフトモ額フニ將ニ一
 定授産ノ方法ヲ施行アルベシ士族タル者宜シク思フ
 ベシタトモ我祖國家ニ勞アリシモ已ニ累世ノ資ヲ受
 ク其功勳ノ報已ニ■クヘシ然ルニ尚産ヲ授クルノ議
 アリ 皇恩優渥ナリト謂ッヘシ我將ニ其好ム所長ス

ル所ニ就テ後來活計ノ方向ヲ定メ令發スルノ日ニ當
 テ速ニ其途ニ就クヘキノ方法ヲ講スルヲ以テ務トス
 ヘシ我縣貫屬ノ如キハ大藩倨傲ノ風ナク 御主意ヲ
 遵奉シ能ク産業ヲ治ムベシト雖氏萬一其務ヲ知ラサ
 ル者アレハ特ニ一縣ノ失体ノミナラス亦 朝廷ノ恩
 意ニ背クナリ故ニ茲ニ告諭ス士族一般此意ヲ了解シ
 一家ノ糊口ハ勿論尚志ヲ遠大ニ騁シ物ヲ開キ務ヲ成
 シ以テ國家隆盛ノ運ヲ賛補スベキナリ
 教法宗門ノ儀ニ付建言 右ハ京都府ヨリ正院へ建
 言相成りタル由大坂新聞
 出ス

宗門ノ事古今内外其害不少而政法家學士議論スル處
最多シト雖氏未タ能ク是ヲ壓絶スル者アルヲ聞カス
終ニ米利堅ノ捨テ不問ヲ以上策トス然レ氏是亦止ヲ
不得ニ出テモルモ宗ノ如キ倫ヲ乱シ俗ヲ壞ルモ如
何氏スル不能ニ至レリ伏惟御國古来ヨリ神佛ノ外宗
門禁絶ニテ其害少シト雖氏佛氏初テ東漸スルノ時
戸皇子蘇我氏等ニ依附シ竊ニ貴權ノ威ヲ盜ミ以テ已
レカ慾ヲ逞フセリ爾後數百年治乱幾回時世變遷スレ
氏其貴權ニ依附シ下民ヲ誑惑シ已レカ慾ヲ逞フスル
トハ未曾テ變スルトナシ鴨水山法師 帝意ニ任セス

三河ノ一揆武將モ不能壓況ニヤ地方ノ官吏都鄙ノ下
民其毒ヲ蒙ル勝テ言フ可カラズ諸藩各國ニ割據シ管
内ヲ專制スル時スラ且佛氏ノ縉紳家ノ威ヲ假リ横恣
ヲ逞シフスルヲ苦シムハ人々皆知ル所ナリ御一新ノ
際 朝威更張群怪迹ヲ潛メ佛氏亦其爪牙ヲ收メ柔順
猫兎ノ如シ加之時暹文明ニ進ミ匹夫匹婦モ漸其奇怪
妄誕ヲ信スルトナキニ至ラントス然レ氏佛氏ハ尚隙
ヲ窺ヒ好ニ投シ僧ヲ汰スルモ敢テ不拒寺ヲ廢スルモ
敢テ不辭口ニ勤王ヲ唱ヘ面ニ柔順ヲ飾リ大ニ其慾ヲ
逞セント欲ス始メハ邪教ヲ防クヲ以テ名トシ漸諸官

新撰雜記 卷五十四 附錄

省ノ重職ニ近接シ 朝廷開化ヲ求サセラル、ニ急ナルニ投シ洋行スル者ノ世ニ貴重セラル、ヲ知テ大使
 参船ノ頃ニ當リ外教探索又ハ宗學修業ト唱ヘ枉テ從
 行ヲ願ヒ暗ニ貴權ノ心ヲ攬ントス其内地ニ留ル者ハ
 更ニ愚民說諭ヲ名トシ己ニ其許可ヲ得テ諸國ニ巡廻
 シ竊ニ無智衆民ノ心ヲ奪ントス然リ而シテ先般神祇
 省ヲ察セラレ教部省ヲ置カレ其令五ヶ条一ニ曰社寺
 廢立及ヒ祠官僧徒等級格式等ノ一ニ曰新ニ祠官ヲ
 置キ僧尼ヲ度スル一三ニ曰教義ニ関スル著書出版免
 許ノ一四ニ曰教徒ヲ集會シ教義ヲ講説シ及ヒ講社ヲ

結フ者免許ノ一五ニ曰教義上ノ新訟ヲ判決スル事皆
 同省ヘ可伺トノ事四月三十日又令アリ曰教義關係ノ
 事件ニツキ神官僧侶等へ違ノ儀ハ教部省ヨリ其教導
 職管長ヲ以テ直ニ可相達候右等ノ事件ハ神官僧侶ヨ
 リテ其教導職管長ヲ以同省ヘ可申出トノ一夫レ神官
 僧侶ノ事教義ニ関セサル者ハ希リ而テ其教義ハ都
 テ地方官治下ノ民事ニ関セサルナシ然ルニ地方官ハ
 是ヲ統轄是非スルトキ時ハ何ヲ以民心ヲ定一シ風
 化ヲ宣布スヘキヤ管内ノ人民心ヲニニシテ地方官ノ
 令ヲ輕ンシ管内ノ神官僧侶ハ教部省ニ直達スルヲ特

新開新言 第五十四卷附録
シテ地方官ヲ凌クテ此令ヨリ起ラン前ノ五条其一社
寺廢立祠官僧侶等級格式モ地方官評論スル能ハス民
政ニ害アルモ害ナキモ不閑唯彼等自ラ為ス終トナラ
シ其二新ニ祠官ヲ置キ僧尼ヲ度スルモ彼等自ラ勸メ
自ラ撰フ処トナラシ其三教義ニ閑スル皆書地方ニ妨
ケアルモ風化ニ障アルモ無問彼等ノ欲スル処トナラ
シ其四教徒ヲ集會シ教義ヲ講説シ及ヒ講社ヲ結フ者
ノ其説地方ノ令ニ不合モ土地人心ニ流毒スルモ地方
官非議スルヲ能ハス直ニ教部ノ許可ヲ以テ驕然主張
スルニ至ラン且ツ多端煩細ノ教部省是ヲ取捨スル

ノ暇アランヤ其五教義上ノ訴訟ノ事實地ノ事情奸曲
百出詐偽百端ナルヲアランニ地方官ヲ不經シテ教部
豈能ク其實ヲ得ンヤ況ヤ亦民心ニ關係シ人民是ニ連
累スルヲアラントキ神官僧侶直達シ終ニ遙々東京ニ
往復シ職業ヲ妨ケ民事ヲ害スルヲナキニシモ非ルベ
シ右ノ五条四月三十日ノ令ニ依テ已ニ地方官ノ閑ヤ
サル處トナリ其弊害恐ル、ニ餘リアリ殊ニ教導職ヲ
置カレ其等級上ハ議長大輔大將ニ列シ下モ判任ニ下
ラス京都府管内ヨリ其既ニ撰任セラル、者先ツ一二
ヲ舉テ論セハ智積院弘現ハ寺内ノ治ラサルヲ以府廳

ヨリ遠出ヲ留メ糺彈中ノ者ナリ而本願寺ハ管内人民
 ヨリ負債幾十萬其内數十年久シキヲ經返濟ノ約ニ違
 ヒ金主ハ終ニ貧困ナスヲナキノ苦シニ陥リ府廳ニ
 訴出ル者連々ナレ氏左支右吾年月ヲ遷延シ却テ華族
 ノ列ヲ辱シ衣食住ヲ始メ家令從者多人數ヲ養ヒ驕奢
 尊大ニ居リ人ノ貧困ヲ不顧如此者ニシテ教正タラハ
 其教ヲ受ル者亦如此シテ可ナラン乎又五月四日教部
 省ヨリノ達シニ曰三月十四日當省置レ候以來四民ノ
 内僧侶得度及ヒ歸俗住職經目等總テ出願ノ向ハ其地
 方官ニ於テ事實詳細取調當省へ伺ノ上可請差圖トノ

夫得度住職等ハ教義ニハ関セサルカ九其宗意ヲ得
 ベキ者ニ非サレハ得度セス教義ヲ知ル者ニ非サレハ
 住職スベカラス是教義第一ノ關係ニ非ル乎然レハ則
 前令ト齟齬スルニ似タリ又數萬ノ僧侶小々ノ寺院モ
 盡ク教部ニ不伺ハ得度住職ヲ不得其煩雜可想且詳細
 ノ取調ハ地方官ニテ已ニ為之ハ教部ノ差圖ハ何ノ為
 ナル教部ノ差圖アル事ナラハ地方官取調ハ又何ノ為
 ナルヤ况其教義關係ノ下ハ僧侶等直ニ教部省ニ申出
 ルヲ得ルニ於テヤ聞ク教部省ニ迄頃僧徒等登庸セ
 ラレ官員ニ列スル由佛氏ノ百方計策ニ根ヲ固クシ蔓

ヲ長セントスルヲ知ル可シ而シテ其弊害ノ最深且大ナルモ亦可思可憂或人教部省官員ノ説ヲ傳ヘテ曰神主モ開化ヲ講シ僧侶モ開化ヲ説キ以テ王政ノ御趣意ヲ貫徹スト是勿率一時ニ用ユル詭計ニシテ文明進歩ノ今日ニ用ユルニ非ス神官僧侶ヲ假ラサレハ開化行ハレス王政貫徹セサルトハ實ニ可歎ノ至リナリ況ヤ却テ開化ヲ妨ケ王政ヲ害スル者ニ於テヤ近頃海外諸國宗門ノ弊害ニ懲リ以太利亞王羅馬法王ノ權ヲ殺キビスマルク務メテ宗徒ノ政事ニ関スルヲ黜ク僧ノ僧ヲ撰擧スルヲ禁シタリト聞ク今ヤ開化策

進ノ秋ナリ妄誕怪異ノ宗門ヲ捨テ人民ヲシテ事理ヲ辨ヘ人職ヲ盡シ文明ノ域ニ入ラシムルニ是レ可務ノ要タリ人民正ニ文明ニ進ミ佛氏ノ妄誕ハ捨テ株ヲサラントスルニ却テ官ヨリ僧侶ニ命シテ教正等ノ職ニ任シ崇信ノ標トナサハ人ノ明ニ向フヲ更ニ誘フテ暗ニ入ラシムルカ如クナラン將タ御國ハ方今事務多端費用莫太ノ時ナリ速ニ無用ノ誤事ヲ除キ無益ノ費用ヲ省キ有用ノ事ニカヲ盡シ有益ノ事ニ賤ヲ用ユ可シ不信妄誕ノ宗門ヲ保護シ小社ノ神官小寺ノ僧侶等迄ヲ指揮進退スルハ堂々タル官省ノ急務ニハ非サル

一シ且其事ニ從フ官員ノ月給ヲ始費用實ニ莫太ナル
 一シ又僧侶等外國ニ航スルノ費用モ是ヲ官ニ取ラカ
 レハ必ス民ニ取リシナラン彼等自ラ其カヲ以テ賤ヲ
 生スル者ニ非ス必ス巧言門徒ヲ誑誘シ其膏血ヲ絞リ
 シ賤ヲ欺キ取リ是ヲ都下ニモタラシバレカ驕奢ニ費
 シ海外ニ齋ラシバレカ巧言誇張ノ用トナス試ニ春來
 佛氏ノ事ニ費ス 公私之賤ト公私ノ手數ト時間トヲ
 以テ是ヲ國家必用ノ道路ニ開キ學校ヲタテ職業ヲ教
 エル等ノ事ニ用ヒハ豈一廡ノ大益ヲ興サ、ランヤ抑
 亦宗教ハ終ニ人民ノ撰フニ任セ方一外國ノ宗教内地

一入ルアアランニ如此内ニ佛教ヲ興隆シ宗派凝固セ
 シムルハ各宗相争フヲ醸スニ非レハ人民ヲシテ多
 岐ニ惑ハシムルナリ政府ノ人民ヲ教育誘導シテ共ニ
 國家ヲ保護維持スルヲ豈誑妄虛誕ノ宗門ニ依頼ス可
 ンヤ仰願クハ 大政府深ク此ニ注意シ妄誕ヲ未タ盛
 ナラサルニ黜ケ患害ヲ未タ萌サ、ルニ防キ斯民ヲシ
 テ速ニ蒙昧ノ惑ヲ解テ文明ノ域ニ進マシメハ帝衆庶
 ノ大幸ノミナラス 御國永世ノ大幸ナラン茲ニ地方
 事務ノ障碍ヲ論シ國家將來ノ患害ヲ慮リ憂苦ニ堪エ
 ス書言ヲ盡サス言忌諱ヲ顧ルニ暇アラス細大請瞭察

誠恐謹言

新聞雜誌第五十四號附錄 終

撰者伏テ四方ノ君子ニ告ケ奉ル本局既ニ 官許ヲ得テ新聞紙ヲ刊行ス
其旨意ハ前ニ述ル所ノ如シ但奇事異聞耳目ノ及バザル處多シ願クハ同好ノ人
何事ニヨラス其處々ノ新聞ヲ書集メ本局及ビ下ニ列スル賣弘慶ニ寄セ玉
ハ次第ニ刊行發兌スニ但寄玉フ書付ニ其住處姓名ヲ必ズ載セ玉フ
可シ無名ノ書ハ敢テ采入セズ無根ノ浮言造説アルヲ恐ルナリ

一切賣買ノ弘ノ等望ニヨツテ出版スル事件

- 一 田地山林家屋舟車等ノ賣買貸借
- 一 新發明巧器及書籍等ノ賣買
- 一 產物器具食品藥劑等一切ノ賣買
- 一 金銀其外ノ貸借等
- 一 諸船ノ入湊出帆積荷ノ物件等
- 一 失物尋物等
- 一 店ヒラキ新規賣出等ノ引札
- 一 觀セモノ集會等ノ引札
- 右等何レモ一行廿三字一度出板價三匁宛同事件二度分ハ五匁五分
- 一テ御引受ノ儀

新聞雜誌定價 銀二匁 每週出版

當時發兌號ヨリ先キ二十冊分引受候向ハ定價ヨリ二割引
同四十冊分ハ三割引

右定ノ通約定前金受取候上ハ每號發兌順序ヲ逐ヒ本局ヨリ御届致
候又遠方取次賣弘方望ミ人ハ本局へ御引合上御相談可申候

本局

東京兩國若松町

新 堂

東京兩國横山町三丁目

和泉屋金右門

東京日本橋通壹丁目

須原屋茂兵衛

賣弘所

東京芝三島町
和泉屋市兵衛

大塚心齋橋通壹丁目
河内屋喜兵衛

大塚心齋橋通
河内屋吉兵衛

大塚心齋橋通壹丁目
河内屋清七

西京東洞院三條上ル町
村上勘兵衛

東京日本橋釘店
和泉屋仕造